

岡崎裕一 議員



画期的ながん検査を全町で！

問 尿一滴で全身15種類のがんが判定できる、線虫を利用した、体に負担のないエヌノーズというがん検査があります。

答 受診率の向上、早期発見・治療のため、本町でも実施できないか。また企業誘致の観点からも、この検査の拠点を誘致できないか、執行部の見解を伺います。

拠点の誘致は前向きに検討

答 エヌノーズ検査は、国の指針に定められておらず本町の検診として実施することはできません。現在、受診率は低いですが、複数の検診を一日で受診できるように実施するなど、今後も受診率の向上に取り組みたい。

エヌノーズ検査の拠点を誘致に関して、前向きに検討したい。

イノシシの効率的捕獲を

問 少しでも捕獲者の負担を減らし、もっと捕獲頭数を増やしていただきたい。

答 手間がかかる毎日のわなの見回りは、設置場所の持ち主の方がいい、捕獲を確認した場合、捕獲者または関係機関に連絡する。このようなことは可能かどうか執行部の見解を伺います。

イノシシの被害連絡は農林課へ

答 捕獲者の負担は理解しているものの、法律上、設置及び見回りは資格を持った捕獲者が行わなければなりません。被害が出ると、捕獲者、依頼者が話し合い、わなを設置します。

今後被害を受けた地域に関しては、農林課に連絡していただければ、対策を検討します。



拠点を設け、がんの早期発見を！

山根耕治 議員



ヤングケアラーの実態は？

問 近年、貧困の問題が全国で注目されています。

答 子どもの貧困、特にヤングケアラーの問題について質問します。全国の子どもの7人に1人が相対的な貧困状態にあるといわれ、山口県内でもさまざまに取り組みが行われています。

周防大島町でのヤングケアラーの実態の把握と対策について伺います。

適切に対応していきます

答 ヤングケアラーについては10月に小中学校で調査したところ、該当する児童生徒は確認できませんでした。

家庭内のことで把握が難しい問題ですが、学校との情報共有をこれまで以上に行い、学習や登校に影響が出る前に必要に応じて関係機関と連携して適切な対応を行っていきます。

要望 一人ひとりの子どもが自分の可能性を追求し、貧困などの理由で夢をあきらめることがないよう、引き続き対応をお願いします。

ヤングケアラーとは、本来は大人が担うようなケア責任を引き受けて、家事や家族の世話、介護などを行っている子どものことです。学習や登校に支障をきたしたり、進学をあきらめたりする問題が起きています。

ヤングケアラーについてのご相談は、教育委員会学校教育課 **0820-78-2204**までお願いします。



貧困の中にある人を支援する非営利の雑誌「ビッグイシュー」
詳しくは「ビッグイシュー基金」で検索を